

教育相談のお知らせ

新緑の美しい季節となりました。さて、4月にお知らせ致しましたように、本校ではスクールカウンセラーとして臨床心理士の中筋裕子さんをお迎えして教育相談を実施しています。6月と7月の教育相談実施日を下記の通りご案内いたします。

記

1. 日 時

なかすじ ゆうこ

スクールカウンセラー 中筋 裕子さんの来校日

6月： 5日（火） 12日（火） 19日（火） 26日（火）
7月： 3日（火） 10日（火） 17日（火）



10：30～11：20（授業中）……保護者からのご相談

11：55～12：35（昼休み）……生徒本人、又は保護者からのご相談

13：00～14：50（授業中）……保護者からのご相談

15：05～16：30（放課後）……生徒本人、又は保護者からのご相談

※ 原則として1回の面談時間は、授業中は50分、昼休み・放課後は40分とします。

2. 場 所 生徒相談室（本館1階）

（生徒相談室前の階段下左手に待合場所があります）

3. 相談申し込み方法

ア) 保護者の方

事前に必ず電話で下記までお問い合わせ下さい。

TEL 06-6303-5661

大阪府立北野高校 保健室

イ) 生 徒（次のうちいずれかで）

- 直接相談室へ行って、中筋さんに話す。
- 保健室前の相談予約カードに記入し、予約カード用ポストに入れる。
- 保健室の先生を通じて申し込む。

【体罰・セクシュアルハラスメント・いじめ等相談窓口について】

本校では、生徒のみなさんが安全で安心な学校生活を送るため、「体罰・セクシュアルハラスメント・いじめ等相談窓口」を設置しています。心配なことや不安なことがありましたら、ぜひ相談してください。一人で悩むことのないように、相談窓口の教職員以外でも、相談しやすい教職員に相談してください。

GWも終わり、本格的な学校生活がスタートしています。中間試験も終了し、勉強や進路の課題に頭を悩ませている人も出てくる頃かもしれません。また、行事やクラブ活動も本格化し、皆さんにとって忙しい日々が続くのではないかと思います。体も心も疲れやすい時期。頑張りすぎず、かといって緩めすぎず…の適度なバランスを心がけていきたいものです。

学校生活で重視されることのひとつとして、集団の中でどううまくやっていくか、ということがあると思います。私たちは多かれ少なかれ、何らかの集団に所属し、その中で様々な行動を決定しています。集団行動が苦にならない人はいいですが、集団では自分らしく振舞えず、やりづらいつと感じる人にとってはストレスになることもありますね。その背景にあるのは、「個人の性格」以上に、集団に特有の現象だったりもするのです。今年度は、『集団になると、人はどういう行動を取りやすくなるのか』など、集団と個人との関係を中心にお話したいと思います。



そもそも、私たちはどうしてどこかに所属しようとするのでしょうか？
今回は、そこを考えてみましょう。

大前提として、私たちにある「安全欲求」「所属欲求」といった基本的な欲求が働いていることがあげられます。米国の心理学者A. マズローは、「欲求 5 段階説」を唱え、人は生きていくために、生理的欲求と同じくらい安全欲求を必要とし、それが満たされると誰かとつながりたい…という所属欲求が生じる、と説きました。私たちが、一人きりの根無し草ではなく、誰かとつながってみたい…と感じるのは身を守るための安全欲求の一部でもり、その次の段階の、所属欲求でもあると考えられます。

また、「アイデンティティ」という観点からも見てみましょう。自分がどんな人間なのか…という自己認識は、10代に入ると複雑になり、悩みの種になることもありますよね。アイデンティティは、他者とのやり取りを通じて形作られて行きますが、中でも、所属集団の一員であることから生まれるアイデンティティを、「社会的アイデンティティ」と言います。たとえば、「私は関西人だ」「私は北野生だ」というようなものがわかりやすいですね。他にも、人種、性、宗教、職業、階層などの分類もあります。私たちは、アイデンティティを作るために、集団に所属したいという欲求を持つとも言えるでしょう。

しかしひとたび集団に所属すると、次は違う変化が生まれます。社会心理学者のJ. C. ターナーは、ひとたび「自分はこの集団の一員」という社会的アイデンティティが作られると、その側面に自分を一致させようとする「自己ステレオタイプ化」が生じると言っています。そのために、その集団特有のタイプに合わせるような行動を取るようになる…という、変化が生じてくるのです。「自分はこの集団の一員」というアイデンティティを確立したことにより、一個人から、「集団人」へと変化が生じるのです。そして、人は、自分をよりよく評価しようという傾向を持っているので、所属集団に対しても、よりよく評価しようという気持ちが生じます。その結果、「身内びいき」「偏見」「差別」のような現象が起こってくるとされています。

ところが私たちは、その集団やグループで求められている（と感じている）行動を取ろうとしても、やりづらいつと感じることもあります。無理をして合わせているとしんどくなってしまうこともあります。

そんな時は、冷静になって振り返ってみましょう。自分にも「自己ステレオタイプ化」が起こっているのではないか、そのために本来の自分に無理を強いているのではないかと見直してみると、少し肩の力が抜けることがありますよ。「自己ステレオタイプ化」は半分無意識的な変化なので、自分でも気づかないうちにそれが自然なことだと思いつみやすく、「マインドコントロール」の罠も生じてくる一因となるのです。無理していることにも気づきにくいのでご注意ください。また、本当にその集団に所属していなければ、安全を感じられないのか、その集団にいて自分のアイデンティティがどの程度守られているのか…を考えなおしてみることも意味があります。つまり、「この集団は自分にとってどこまで大事なのか？」「無理して合わせなければここにいられないのか？」という視点ですね。そこを見直していくと、次の段階が見えてきます。例えば違う集団に移行することもできるし、今の集団の性質を変えていくこともできます。また、所属しながらも、「個人アイデンティティ」を重視する道を選ぶこともできます。

次回以降も、集団内ではどんな現象が起きやすいかについて、色々見て行きたいと思います。